

山梨大学附属図書館報

やまなし

2021.3.26
vol.18
no. 2

contents

- 2 | ワインのTypicityを語る
 - 4 | 図書館利用者の声
 - 5 | 学生にすすめる本
 - 6 | 図書館トピックス
 - 「L5アートミックス2020 -井坂研究室の試み-」を開催 [本館]
 - 「若手研究者のための英語論文投稿セミナー2021」を開催 [医学分館]
 - 「KOD：研究社オンラインディクショナリー」が利用可能
 - 山梨大学・山梨県立大学間、文献複写・現物貸借の送料無償化について
 - 8 | ● 感染症対策中の図書館利用について
- 今後のイベント紹介

ワインのTypicityを語る



生命環境学域長 オクダ トオル
ワイン科学研究センター長 奥田 徹

皆さんの中には、ワインを飲まれる方も多いと思います。その一方で、「ワインは難しい」と思っている人も多いと思います。どんなワインが良いワインなのでしょう？ ワインは主としてヨーロッパで作られてきました。紀元前7000年ぐらいから始められたワイン製造は、長い間の人間の努力により徐々においしくなり、フランスやイタリアに銘醸地ができました。その後、ワインの文化は世界中に広がり、世界中でフランスやイタリアのワインを真似し始めました。そして、ヨーロッパ以外の土地でも素晴らしいワインが作られるようになったのが、1990年代でしょう。ナパバレー、アデレード、マールボロ、比較的最近の話です。このころのおいしいワインとは、フランスやイタリアの「ような」ワインだったのです。しかし、どんなに真似をしても、フランスやイタリアとは何かが違うのです。そこで、世界のワイン産地は方向転換しました。「真似をしても無駄だから、独自のスタイルを育てよう」。一方で、世界中に真似をされ、窮地に追い込まれたヨーロッパでは、「テロワール」と呼ばれる宣伝を始めました。ワインは農作物であり、土壌や気候、栽培の伝統や工夫が重要である。ヨーロッパのワインはヨーロッパでしかできない！というものです。フランスにはボルドーという銘醸地がありますが、ボルドーのワインは、品種が決まっており、スタイルがあります。同じフランスでもブルゴーニュは品種も違うし、スタイルも違います。世界が独自のスタイルを持ち始めたのです。最近ではワインの評価をするときは、産地「らしい」スタイルがあるか？ということに重視しています。これをTypicity（ワイン評価のための造語、典型性）と呼んでいます。



ワインを評価する場合、産地のTypicityが感じられるかが重要になっているのです。そのためにはTypicityが分かる必要があります。20本ぐらい、同じ産地の同じ品種（スタイル）のワインを飲み続けてみれば、何となくその土地のTypicityが感じられるようになります。そのあとで、同じ品種で別の産地のワインを飲むと、何か違うなあ？と思います。毎回、違う産地のものを飲むと、いつになってもTypicityが分からないのです。

このような、「産地のTypicity」以外にも、「品種のTypicity」があります。Chardonnayの特徴があるか？Merlotらしいか？という意味ですね。これも同じ品種ばかりしばらく飲めば、何となくわかるようになります。

さて、ご存知のように日本のワインの品質は大変向上しました。日本もワインの銘醸地を目指して、努力をしているのです。山梨、長野、山形、北海道などが有名になってきました。こうなると、Typicityが重要になってきます。「日本らしさ」「山梨らしさ」って何でしょう？ 我が家でもワインを飲んでいますが、最近は辛口の「甲州」が多くなりました。他国のワインより、圧倒的に日本の食事に合うからです。「甲州」から作ったワインは、品種だけでも「日本らしい」でしょう。その上で、「山梨らしさ」の追及が始まっています。山梨でなければ出せない味、それは気候、土壌、それらを活かす人間の英知であり、山梨でワイン製造をする人が、団結して作り上げる必要があります。



いろいろな産地のワインを飲んでみると、芸術や文化などに共通する何かがあるような気がします。フランスのワインはミレーの絵のような少し暗い複雑な色使い、アメリカのワインは、派手で原色ですね。言語や食事、音楽もどこか似たものがあるようです。たぶん、Typicityには人間が重要なのでしょう。

あなたは何人（なにじん）ですか？と聞かれると、「私は日本人です！」と答えます。両親も祖母も日本人だし……しかし、祖先を考えると怪しくなってきます。縄文人？弥生人？その前はどこにいた？本当に日本人？間違いはない？宗教や哲学なども国民性には影響が大きいようです。

コロナで、銘醸地のワインは大打撃を受けています。世界中でレストランなどが自粛を求められ、高級ワインが売れないのです。一方で、「家飲み」は好調のようです。自分が何人なのか、自分にTypicityはあるかを考えるために、図書館で日本に関する本を借りて、日本ワインでも飲みながら、家でページをめくってみるのも良いかもしれません。歴史、写真集など何でも良いでしょう。日本のTypicityを発見できるかもしれません。



写真：世界には色々な産地がある。ギリシャのワインも大変おいしい。

図書館 利用者の 声

紙は枯野をかけ廻る

教育学部 モリモト タク
生活社会教育講座 森元 拓 教授

私の図書館活用術

医学部看護学科 イトウ アイナ
4年 伊藤 愛菜

図書館って、どういう場所だと思いますか？ もし、図書館を「自習室」としか考えていないのであれば、それは本当に勿体ない話です。何故なら、古今東西のあらゆる書籍や論文を参照できる図書館は、巨大な「知の世界」への入口だからです。

大げさじゃないかって？ 確かに、図書館の所蔵数は限られています。しかし、利用者サービスの「文献複写／現物貸借」を利用すると、他大学や国立国会図書館などに収蔵されている書籍や論文をコピーしたり、取り寄せたりすることができます。これによって、全国の図書館が収蔵する書籍や論文を居ながらにして参照することができます（私は活用しまくっています）。図書館は巨大な「知の世界」への入口です。

その上、図書館には、「知の世界」を探索するための優秀な「水先案内人」が居ます。カウンターの司書さんです。彼ら／彼女たちは我々の「知の世界」の探索を助けてくれます。司書さんに探している文献や論文について相談してみてください。たちどころに適切なアドバイスをくれるはずですよ。皆さんも、是非、利用してください。

松尾芭蕉は、「旅に病んで夢は枯野をかけ廻る」という辞世の句を詠みました。『おくの細道』をものした松尾らしい句ですが、松尾の時代に図書館があったなら、松尾は、旅に出なくとも世界中の知に触れることができたのに、とってしまします。現在の我々はコロナ禍で旅行ができない状況ですが、折角ですから、これを機に、図書館を利用して「知の世界」の探索を楽しんでみてはどうでしょうか。



突然ですが皆さんは「図書館」と聞いて何を想像しますか？ きっと多くの方が、本を借りることを想像すると思います。勿論、図書館利用者の多くが、本を借りるために図書館を訪れると思います。しかし、私の大学生活を振り返ると、本を借りる以外にも様々な事で図書館を利用していました。そこで今回は、私の図書館活用術を紹介します。

例えば臨地実習時です。山梨大学では多くの学生が実習を経験しますが、医学分館は医学部附属病院に隣接し、24時間図書館を利用出来る利便性があります。そのため私は、早朝図書館へ行き自宅にはない緊張感の中で学習することで、実習につきものの眠気に襲われるのを防いでいました。また、学内に設置されているどのパソコンからでも印刷出来る図書館のプリンターもよく利用しました。学生は何かと印刷する機会が多く、急に印刷が必要な時は学内にいるパソコンからプリンターへ送信し、図書館までダッシュしていました。

他にも、借りた本が多い時にはカウンターでバッグを借りられたり、看護研究時は何十件と論文を取り寄せたりと、図書館はまさに私の学びを支えてくれた場所だと思います。今回は私の活用術を紹介しましたが、図書館利用者それぞれに違った活用術があり、活用の仕方だけ魅力も様々あると思います。そんな魅力溢れる図書館を利用出来ることや、図書館を支える職員の方々に対し感謝を忘れずに、まだ見ぬ活用術を探しつつこれから先も利用していきたいです。

学生にすすめる本

● 医学分館 2F 開架書架(第三) QZ200/GAN/1
QZ200/GAN/2

がん：4000年の歴史 上下

シッタールタ・ムカジー著；田中文訳
ハヤカワノンフィクション文庫



科学が発達するはるか以前の古代より我々を悩まし続ける“それ”はどのように呼ばれたか、理解はどのように変わったか、どのように攻略してきたのか。この本は“がん”という病気に対する人類の終わりなき年代記です。著者のムカジーは腫瘍内科医であり、闘病中のあるがん患者からこう問われました「私が戦っている相手の正体をしらなければならない」。この問いに対する著者の答えとして“がん”にまつわる文化、歴史、文学、政治の過去と未来が壮大な1つの物語として一般向けに書かれており、本書はピュリッツァー賞ノンフィクション部門を受賞しています。

“がん”とは密度の高い胆汁の塊であると長く信じられていた古代ギリシャ時代～中世から遺伝子異常を有する細

胞の病気であることが解明された1980年代までの変遷。現代医療黎明期の医師と患者の壮絶な戦いと失望。がん戦争とも呼ばれる国家によるがん制圧の試み。がん研究者の競争と製薬会社の台頭。講義や教科書で学ぶ科学、医学とは異なる視点の“がん”がこの本では語られています。

がんは日本人の死因の第一位であり、日本人の二人に一人はがん罹患するほど我々にとっては身近な病気です。本稿を書いているのはwith Coronaの真っ最中ですが、人類のwith Cancerの歴史も大変に面白いので、学部、学科、学年に関係なく本書を一読されることをおすすめします。



図書館の所蔵情報へ

● 本館 2F 新着書架 440.76
● 医学分館 2F 開架書架(第三) WS9/SUB

すべての人に星空を ：「病院がプラネタリウム」の風景

高橋 真理子著 新日本出版社



星空を見上げる時、私たちは何を思うのでしょうか。好きな人のこと？日々の悩み？宇宙の果てしなさを、亡くなった人のこと…。星空はなぜか、私たちの心を解放し、そっと寄り添ってくれます。でも、長期入院等で本物の空を見上げることもままならず、一日の大半を白い天井を見上げて過ごしている患者さんたちは…？著者の「宙先案内人」高橋真理子さんは、山梨県立科学館のプラネタリウム解説員を経て「星空を届ける」「人と星をつなぐ」仕事を自ら生み出してきました。本書は『病院がプラネタリウム』の活動によって星に触れ、宇宙を旅した患者さんやそのご家族、医療スタッフの方々、そして高橋さんが共同代表を務める「星つむぎの村」の仲間たちが織り成す、奇跡のような現在進行形の物語です。

第2章「『病院がプラネタリウム』が生まれるまで」には、山梨大学附属病院小児科や院内学級も登

場、第6章には、この活動に触発されて病院プラネタリウムの自主企画を始めた大学生もたくさん出てきます。

また、高橋さんは梨大のキャリア教育の一環で毎年講演してくださっています。「皆が好きな事、あるいはほっておけない事を仕事にすることで、社会のありようも必ず変わってくる」という言葉には大きな説得力があります。ぜひ一度読んでみてください。そして今夜はぜひ、星空を見上げてみてくださいね。

★YouTubeで「星つむぎの村」検索すると、動画も沢山UPされています。ライブ配信で星空を届ける『フライングプラネタリウム』の実際の映像も見られるので、本と併せてぜひご覧ください。



図書館の
所蔵情報へ



本館 絵画展示 開催

「L5アートミックス2020 -井坂研究室の試み-」を開催



本館では、令和2年12月16日（水）～12月20日（日）の期間、2階第二展示室にて「L5アートミックス 2020-井坂研究室の試み-」を開催いたしました。

油彩画、水彩画、CG、ミクストメディア、写真等、教員及び学生の皆様の迫力ある熱い作品が展示されました。

井坂研究室では、絵画の領域を中心としながら、芸術の可能性を探るべく、油彩画、水彩画といった従来の絵画表現から、写真、CG、ミクストメディアといった表現方法まで多彩な表現方法を模索しています。展示された作品には、それぞれ繊細で複雑ないろいろな表現に心打たれるものがありました。

今回は、学外者の入館を制限しているため、入場者数は減少しましたが、今後は、コロナ禍が終息したところで、一般の方にもぜひ来ていただき作品に触れ、彼らの表現を受け止めていただけたらと思います。

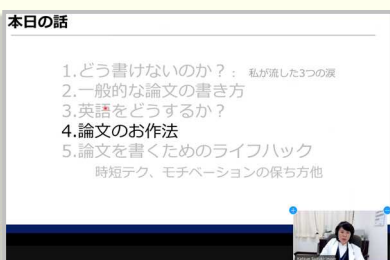


* 出品者 *

- 井坂 健一郎（山梨大学大学院 教育実践創成講座 教授）
- 田中 彩也香（教育学部芸術身体教育コース4年）
- 渡邊 美優（ // 4年）
- 清水 優衣（ // 3年）
- 原中 紫帆（ // 3年）

医学分館

「若手研究者のための英語論文投稿セミナー2021」を開催

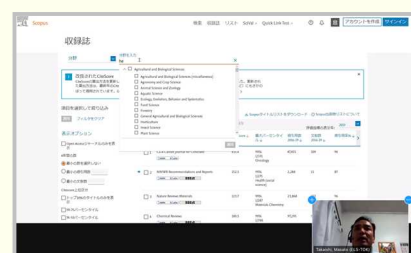


令和3年3月17日（水）、附属図書館医学分館主催「若手研究者のための英語論文投稿セミナー2021」を開催し、学生・研究者・医療従事者等81名が受講しました。今回のセミナーは、新型コロナウイルス感染症対策として、Zoomによるオンラインで開催いたしました。

セミナー1部では、医学部臨床検査医学講座教授、附属病院検査部・輸血細胞治療部部長の井上克枝先生が「私は、論文が、書けない：苦悩の軌跡」と題して、論文投稿の際のさまざまな経験を振り返りながら、英語論文投稿のために必要なポイントを具体的に説明されました。また、論文を書くためのご自身のライフハックについても話されました。

セミナー2部では、学術情報サービスを世界的に展開するエルゼビアジャパン リサーチソリューションズ部門 シニアカスタマーコンサルタントの高石雅人氏に講師をお願いし、「すぐに使えるツールのご紹介 ～エルゼビア論文投稿関連～」と題して、エルゼビア社で提供している、論文投稿に活用できるツールについてのご講演をいただきました。

参加者からは、「論文を書くテクニックのみならず、論文を書く時間の確保やモチベーションを上げるコツなどにまで言及されており、非常に参考になりました。」等の感想が寄せられ、有意義なセミナーとなりました。



「KOD：研究社オンラインディクショナリー」が利用可能

同時アクセス数5

学認対応

スマートフォン対応版あり

インターネット上で利用できる辞書検索サービス「KOD：研究社オンラインディクショナリー」を導入しました。このサービスでは、『リーダーズ英和辞典』をはじめ、研究社の発行する和英・英和辞書など、多彩な辞書を検索できます。用途にあわせて「標準辞書セット」など辞書のセットや個別の辞書を指定して検索することもできます。

冊子体の辞書は、禁帯出（＝貸出禁止）のため館内でしか利用できませんが、このオンライン辞書は、学内はもちろん、学認対応ですのでご自宅からも使えます！ 使い方も簡単です。ぜひご利用ください。

アクセス方法は、図書館HPもしくは研究社KODのHPからログインしてください。

図書館HP → 電子資料



研究社KOD <https://kod.kenkyusha.co.jp/service/>



上から、学内・学外・スマートフォンのログインボタン

山梨大学・山梨県立大学間、 文献複写・現物貸借の送料無償化について

令和2年11月より、両大学間の文献複写・現物貸借について、送料を図書館が負担する「送料無償化」のサービスを始めました。これにより、利用者は双方の大学が所蔵する図書を無料で取り寄せて借りることができます（文献複写はコピー代のみで取り寄せ可能です）。この事業は令和3年度も継続いたしますので、ぜひご利用ください。

なお、複写提供可能な電子資料の送料も無償化の対象となります。





感染症対策中の図書館利用について

新型コロナウイルス感染症などの感染防止対策として、次のことに注意して図書館をご利用ください。

【各館共通】

- ・体調不良の方は利用をご遠慮ください。
- ・マスク着用，入退館時の手指消毒にご協力ください。
- ・館内の席は閲覧席／個人席として，十分な間隔をあけてご利用ください。
- ・館内での雑談はご遠慮ください。

【本館】

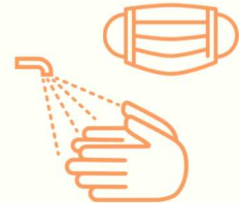
- ・館内の飲食は，1階で飲料のみ可能です。
- ・土日は開館日であっても施錠しています。ICカード(学生証・教職員身分証)で入館してください。
- ・特別利用は休止しています。
- ・視聴覚室は閉室しています。室内の資料をご利用の方は，カウンターでお申し出ください。

【医学分館】

- ・学習室，視聴覚室の利用は休止しています。
- ・特別利用は通常通り行っております。

【学外の方へ】

本館・医学分館とも学外の方の利用はご遠慮いただいております。



今後のイベント紹介

2021年度山梨県・山梨大学連携事業

申込必要

「子どもの読書オープンカレッジ」のご案内

子ども図書室では，山梨県・山梨大学連携事業の一環として，山梨県立図書館との共同企画により「子どもの読書オープンカレッジ」を実施する予定です。

今後の詳しい日程や内容は，随時，子ども図書室ホームページに掲載いたしますので，ご参照ください。

【お申し込み・お問い合わせ】

山梨県立図書館サービス課 子ども読書推進担当

〒400-0024 甲府市北口二丁目8-1 TEL 055-255-1040 (代) FAX 055-255-1042

主催：山梨県立図書館・山梨大学附属図書館子ども図書室

学外の方への利用案内

本館及び医学分館は，通常山梨大学以外の大学生をはじめ一般の方々も利用できますが，現在，新型コロナウイルス感染症拡大防止のため，学外者の方の利用をご遠慮いただいております。

最新の情報については，
<https://lib.yamanashi.ac.jp/>をご覧くださいか，
本館 Tel:055-220-8066，医学分館 Tel:055-273-9357
にお問い合わせください。



山梨大学附属図書館報
「やまなし」
第18巻第2号

2021年3月26日 発行
編集：館報編集委員会
発行：山梨大学附属図書館
〒400-8510
甲府市武田四丁目4-37
TEL 055-220-8063

● 表紙：ワイン科学研究センター地下貯蔵庫
場所：ワイン科学研究センター（図書館職員 撮影）